



Y.Machida

THE DAILY HAI NISAI STAKES

第60回 デイリー杯2歳ステークス (GII)

| | | | | |
|----------------|-------------|------------|------------|------------|
| 1着 | 2着 | 3着 | 4着 | 5着 |
| 本賞 38,000,000円 | 15,000,000円 | 9,500,000円 | 5,700,000円 | 3,800,000円 |
| 付加賞 308,000円 | 88,000円 | 44,000円 | | |



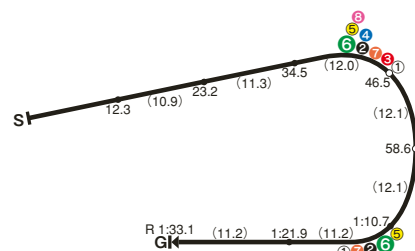
レース映像は
こちらでご覧
いただけます。

2歳、除未出走馬および未勝利馬
負担重量 馬齢重量

2025.11.15 京都 晴・良 芝1600m (国際) (指定)

| 順 | 馬番 | 馬名 | 性齢 | 斤量 | 騎手 | タイム (管差) | コーナ- 通過順位 | 上り (600m) | 馬体重 (増減) | 単勝 オッズ | 調教師 | レーティング |
|---|----|-----------|----|----|--------|-------------|--------------|--------------|-------------|-----------|-----------|--------|
| 1 | ⑥ | アドマイヤクワッツ | 牡2 | 56 | 坂井瑠星 | R1:33.1 | 6-7 | 34.0 | 478(+6) | 2.6(1) | 友道康夫(栗東) | 111 |
| 2 | ⑦ | カヴァレリッツォ | 牡2 | 56 | C.デム・ロ | アタマ | 3-2 | 34.3 | 478(-2) | 2.6(2) | 吉岡辰弥(栗東) | 110 |
| 3 | ④ | アイガーリー | 牡2 | 56 | 武 豊 | 5 | 4-2 | 35.2 | 438(-2) | 34.0(7) | 秋山真一郎(栗東) | 100 |
| 4 | ① | エイシンディード | 牡2 | 56 | 高杉史朗 | 1 | 1-1 | 35.6 | 450(+2) | 22.5(8) | 大久保龍志(栗東) | 98 |
| 5 | ② | マイケルバローズ | 牡2 | 56 | 岩田望来 | 2 | 4-5 | 35.6 | 496(+4) | 37.2(8) | 上村洋行(栗東) | |
| 6 | ⑧ | グッドピース | 牡2 | 56 | 西村淳也 | 1% | 6-5 | 35.9 | 466(+14) | 10.8(4) | 高野友和(栗東) | |
| 7 | ③ | ガリレア | 牡2 | 56 | 杉原誠人 | ハナ | 2-2 | 36.1 | 438(-4) | 19.1(5) | 清水英克(美浦) | |
| 8 | ⑤ | キャンディード | 牡2 | 56 | 北村友一 | % | 6-8 | 35.8 | 490(+10) | 3.8(3) | 松下武士(栗東) | |

単勝⑥260円(1[△]%) 複勝⑥120円(1[△]%) ⑦120円(2[△]%) ④350円(7[△]%) 枠連：発売なし
馬連⑥-⑦360円(1[△]%) ワイド⑥-⑦190円(1[△]%) ④-⑥1,190円(18[△]%) ④-⑦1,030円(15[△]%)
馬単⑥-⑦660円(1[△]%) 3連複④-⑥-⑦3,230円(12[△]%) 3連単⑥-⑦-④11,210円(40[△]%)
5重勝⑥⑦⑧④⑤12,552,240円(24票) 対象競走：東京10R／京都10R／福島11R／東京11R／京都11R



通過タイム： 600m 800m 1000m 上り： 800m 600m
34.5 - 46.5 - 58.6 46.6 - 34.5

アラカルト

- ・坂井瑠星騎手はランフォーヴァウで制した24年に続くデイリー杯2歳S2勝目。JRA重賞は25年6勝目、通算25勝目
- ・友道康夫調教師はアドマイヤマーズで制した18年に続くデイリー杯2歳S2勝目。JRA重賞は25年7勝目、通算78勝目
- ・リアルスティール産駒はJRA重賞通算8勝目
- ・勝ちタイム1:33.1は13年の本競走でホウライアキコが記録した1:33.2を更新するコースレコード
- ・キャンディードは競走中に疾病(鼻出血)を発症

アドマイヤクワッツ *Admire Quads*

牡 鹿毛 2023.1.23生
北海道安平町 ノーザンファーム生産
馬主・近藤旬子氏 栗東・友道康夫厩舎
馬名意味・冠名+4枚の同じ数字のカードが揃った強力な役
(ポーカー用語)

バシフィックリムIRE系 F2-n

| | | |
|---------------------|-------------------------|-------------------------------|
| リアルスティール 鹿毛 2012 | ディーブインバウト 鹿毛 2002 | サンデーサイレンスUSA ウインドインハーヘアIRE |
| | ラヴズオンリーミーUSA 鹿毛 2006 | Storm Cat Monevassia |
| デイトライン 栗毛 2017 | Zoffany 鹿毛 2008 | Dansili Tyranny |
| | バシフィックリムIRE 黒鹿毛 2010 | Singspiel Prairie Runner |

5代までのインブリード: Halo S4×M5 Mr.Prosoector S4×M5

INTERVIEW

高見優也 厩舎長(ノーザンファーム空港)

レコード樹立には驚いています

父の産駒は芝、ダートを問わない活躍を見せていますが、この馬は動きに軽さもあり、しまいの切れも感じていたので、芝向きの馬だと思っていました。乗り慣らしの頃は細かった馬体も日に日に成長していき、厩舎へ送り出す頃には見た目だけでなく、動きの良さも目を引くようになっていました。馬場が悪いインをつきながらのレコード樹立には驚いています。

N.Inaba



決 の行方が大いに注目される。

決 重賞ウイナーも2頭参戦したデイトライン杯2歳Sだが、人気の中心を占めたのは1戦1勝馬。新馬戦を勝ち上がったばかりのアドマイヤクワッツ、カヴァレリッツォが同じオッズ(単勝2・6倍)で1、2番人気を分け、一枚上の戦歴(2戦2勝)を誇る中京2歳Sの覇者キャンディードがこれに続く存在と目された。前評判通りの一騎打ちを演じたのは1戦1勝の両馬。アタマ差で決着した接戦の軍配は、1番人気のアドマイヤクワッツに上がった。

函館2歳Sを鮮やかに逃げ切ったエインディードが、この日も出色のダッシュで飛び出して先制。中盤にペースを緩めた同馬を筆頭に、一団の隊列

ズがカヴァレリッツォの反撃を凌ぎ切り、息詰まる攻防に競り勝った。

リアルスティール産駒の本馬は10月に東京・芝1600mの新馬戦でデビュー。中団から鋭く差し切って初勝利を挙げると、この日は非凡な決めに加えて抜群の勝負根性もアピールし、無傷の2連勝を飾った。勝ちタイムの1分33秒1は、2013年の本レースでホウライアキコがマークした記録を12年ぶりに塗り替える2歳のコースレコード。無傷の戴冠に挑む朝日杯フューチュリティSでは、新潟2歳Sのライラズシリウス、サウジアラビアロイヤルCのエコロアルバとの無敗対決

父リアルスティール

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央、首17戦4勝(ドバイターフ^{G1}、毎日王冠^{G1}、共同通信杯^{G1}、皐月賞^{G1}2着、菊花賞^{G1}2着、天皇賞(秋)^{G1}2着、神戸新聞杯^{G2}2着、スプリングS^{G2}2着、ドバイターフ^{G1}3着)、19年から日、豪で供用〔代表産駒〕**フォーエバーヤング**(BCクラシック・米^{G1}、サウジC・沙^{G1}、東京大賞典^{G1}、ジャパンダートクラシック^{J1}、全日本2歳優駿^{J1}、UAEダービー^{G2}、日本テレビ盃^{J1}、サウジダービー・沙^{G3}、JBC2歳優駿^{J1}、ケンタッキーダービー・米^{G1}3着、BCクラシック・米^{G1}3着、ドバイワールドC・首^{G1}3着)、**レーベンスティール**(毎日王冠^{G1}、セントライト記念^{G1}、オールカマー^{G1})、**アドマイヤクワッツ**(本馬)、**オールバルフェ**(デシリール杯2歳S^{G1})、**チカッパ**(東京盃^{J1}、北海道スプリントC^{J1}、JBCスプリント^{J1}2着)、**ヴェローチェエラ**(函館記念^{G1})、**カナルビーグル**(ユニコーンS^{G1})、**フェブランシェ**(スパーキングレディーC^{J1}、**ヴィンセンシオ**(弥生賞デューブインバウト記念^{G2}2着)、**ノイジーボーイ**Noisy Boy(タロックスS・豪^{G2}2着)、**アレンジャー**(アーリントンC^{G1}2着)、**ドナベティ**(ファンタジーS^{G1}2着)、**ショウナンカリス**(ファンタジーS^{G1}2着)

母デイトライン

北海道安平町 ノーザンファーム生産 持込 中央4戦0勝
ワンザストーリー(22 牝父ミッキーアイル)中央6戦0勝、地方8戦0勝
アドマイヤクワッツ 本馬(23 牝父リアルスティール)中央2戦2勝(デシリール杯2歳S^{G1}) 獲得総賞金45,808,000円
(24 牝父アドマイヤマーズ)
(25 牝父サリオス)

祖母バシフィックリムIRE

仏3勝(マルレ賞・仏^{G2})、17年輸入、18年死亡
パスオブグローリー Paths of Glory(15 牝父Mastercraftsman)豪、英7勝(JRAプレート・豪^{G3}、ワイオンゴールドC・豪I、ザQ22・豪^{G2}3着、チェアマンズクオリティ・豪^{G2}3着、プレミアズC・豪^{G3}3着)
デイトライン(17 前出)

曾祖母ブレイリーランナー Prairie Runner

アイルランド産 仏2勝(ミネルヴ賞・仏^{G3})
ブレイリースター Prairie Star(08 牝父Peintre Celeble)仏、豪4勝(オール賞・仏^{G2}、コンデ賞・仏^{G3}、バルブヴィル賞・仏^{G3}2着、ラフォルス賞・仏^{G3}2着、クリテリウムドサンクルー・仏^{G1}3着)
バシフィックリムIRE(10 前出)

非凡な決め手で2歳コースレコードV

でレースは進む。スタート直後、7番枠から内に進路を取ったカヴァレリッツォが好位につけ、アドマイヤクワッツの坂井瑠星騎手はこれを射程に収めながら後方2、3番手を追走。その外を走らせたキャンディードは、アクシデント(ゴール後に鼻出血が判明)の影響で早々に手応えを失ってしまふ。

マイペースの逃げを打ったエインディードは、直線に向くと馬場の真ん中へ持ち出してスパート。とはいえ、そんな逃げ馬を凌駕する末脚を発揮したのが、開いた内を突いて加速にかかったカヴァレリッツォとアドマイヤクワッツだった。残り200m地点から馬体を並べ、激しく火花を散らした2頭。僅かに前に出たアドマイヤクワッツ